



ヨーロッパ財宝ミステリー2

～失われた琥珀の間の秘密×西島秀俊～

放送予定：BS-TBS

10月10日(火)午後9:00～10:54

この番組は2016年9月に放送した『ヨーロッパ財宝ミステリー～消えた黄金列車の謎×西島秀俊』の続編です。戦後70年以上を経て今なお謎に包まれるナチスが奪ったとされる秘宝を追うミステリー、俳優・西島秀俊が再び欧州に向かいます。



©BS-TBS

ロシアから消えた最大の秘宝「琥珀の間」の行方を追って、再びヨーロッパに旅立つ西島。宝の“地図”とされるのはナント1枚の楽譜だった。ナチスが使ったルーン文字が散りばめられてある。「マティアスが弦を触る場所・黒い森のエーデルワイス…」指しているとされる所、それはゲーテが讃えたドイツの美しいバイオリンの町?或いはチェコの古城?西島は、金属探知機も駆使し、各地を巡り、秘密を守ろうとする人々と対峙する。

製作スタッフの
つぶやき

みなさんは、財宝を見つけたらどうしますか?私は自分で保管したいと思っていました。しかし、財宝の背景を知れば知るほど、持ち主がいれば返還することが大切だと今では感じます。

500億円を超える価値がある「琥珀の間」を求めて旅をする西島秀俊さんと財宝を追う人達、阻む人達との攻防戦は必見です!!

アシスタントディレクター 原 佑基



世界はTokyoをめざす

真の自立をめざして

～東ティモール・マラソンランナー～

放送予定
NHK BS1
10/1(日)
午後8:00～8:49

再放送
10/22(日)
午前0:00～0:49

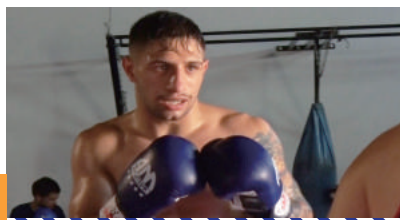


2002年に独立を果たした東ティモール。マラソンランナーのアギダ・アマラル(45歳)は、2000年、内紛のさなか個人資格でシドニーオリンピックに出場。ゴール時にひざまずき祈りを捧げる姿は世界中に感動を呼んだ。それから17年、アギダは今も現役ランナーだ。自身のランニングクラブを運営しながら、若手選手の育成にも力を注ぐ。しかし、独立直後は豊富にあった国際支援は、激減。クラブの運営は危機に直面している。自立の道を模索しながらTokyoをめざす、アギダたちの挑戦の日々を見つめる。

再放送
11/7(火)
午後11:00～11:49

放送予定
NHK BS1
10/22(日)
午後8:00～8:49

情熱の拳で打ち倒せ
～スペイン ロマのボクサー～(仮)



スペインの若手ボクサー、サムエル・カルモナ(21歳)は「流浪の民」と呼ばれるロマの出自であることを公言している。現在ライトフライ級の世界ランキング10位。2020年の東京オリンピックでメダリストになることで、ロマへの根深い差別と偏見をなくしたいと願っている。ロマたちの期待を背負い、誇りをもってトレーニングに励みながら、闘い続けるカルモナの日々を見つめる。



英雄たちの選択

奇想天外の浮世絵師

～歌川国芳 命がけの挑戦～(仮)

放送予定：NHK BSプレミアム

10月5日(木)午後8:00～8:59

町人文化が花開いた江戸後期、絶大な人気を誇った天才浮世絵師、歌川国芳(1798-1861)。今、ロンドン、パリと大規模な展覧会が開かれ、高い評価を受けている。現代人も魅了する国芳の奇想天外な浮世絵。その誕生の背景には、江戸の人々の暮らしを揺るがす大きな事件があった。絵師としてそのとき何を描くのか?国芳の葛藤に迫る!



国立歴史民俗博物館 所蔵

Special 坂本龍一の音楽と思索の旅を捉えたドキュメンタリー

『Ryuichi Sakamoto : CODA』

第74回 ベネチア国際映画祭公式上映！鳴りやまぬ大喝采！！

9月3日、映画祭のアウト・オブ・コンペティション部門での上映後、坂本龍一さんと監督のステューブ・ノムラ・シブルさんに「ブラボー！」の声援と共に惜しめないスタンディングオベーションが送られました。

本作は、日本人の母親とアメリカ人の父親を持つシブル監督が、2012年から5年間という長期間にわたる坂本への密着取材によって実現。さらに、膨大なアーカイブ素材も映画を彩ります。第88回アカデミー賞で3部門受賞を果たしたアレハンドロ・G・イニャリトゥ監督作『レヴェナント：蘇えりし者』の音楽を手がけるなど、映画音楽家としてもその実力を知られている坂本を追ったドキュメンタリー映画だけに、アウト・オブ・コンペティション部門ながらもメインシアターで公式上映されるという、注目度の高さがうかがえました。映画は、東京国際映画祭で日本プレミアののちに、11月4日より、角川シネマ有楽町、YEBISU GARDEN CINEMAほか全国公開します。



ドキュメンタリージャパンは、5年前からこの日米国際共同制作映画に日本側制作会社として関わりました。プロデューサーの橋本佳子は、ドキュメンタリージャパンで多岐にわたる映画・テレビ作品を手がけ、各国の映画祭正式招待作品や数多くの受賞作品をプロデュースしています。

第14回

カメラマン 山崎 裕

【連載】リレーコラム『ドキュメンタリーは〇〇である』

～ドキュメンタリージャパンのスタッフが紡ぐ『ドキュメンタリー』と『ワタシ』の関係～

ドキュメンタリーは「~~いただきもの~~」である。

何を、誰が、如何に、記録するか、がドキュメンタリーだ。まず「対象」があり、「対象」が自発的に発しているものを、発見する事が求められる。発信が積極的であれ、消極的であれ、カメラはそれを受け止めていく事しか出来ない。私たちが得られたものは、将に“いただきもの”なのだ。だからこそ、私たちはいただいた事の“責任”を背負わなければいけないのだろう。そう思うのは、カメラという道具を使ってきたからだろうか？

バトンを渡す相手

⇒ 加瀬澤 充さん

座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバルを立ち上げから一緒にやってもらっている彼に渡します。

制作中の番組



その他、多岐に渡る作品を制作中です！
詳細はドキュメンタリージャパンのHPまで。

編集後記

先月号で取り上げたETV特集『青春は戦争の消耗品なのか』を見たという、古～い知り合いからメールをいただきました。「今の時代を生きる者として、戦争に、時代にどう向き合うか、という視点がとてもよかった、感動した!」。直接の担当番組ではないけれど、DJの仲間が制作した番組を、こんな風に思いがけず褒めていただくと、やっぱり嬉しい。もちろん、厳しい意見や感想でも、見て伝えていただくことの有難さは次への活力を生み出します。DJでは不定期に『番組を見る会』を開催、様々な意見をぶつけ合う刺激的な場がありますので、機会があれば取材しDJ MAGAZINEでもご紹介したいと思います! (M.Y)

Design by HARIMA koutarou

株式会社ドキュメンタリージャパン

HP: <http://www.documentaryjapan.com>

〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目12番20号 和晃ビル1F TEL:03-5570-3551 FAX:03-5570-3550